

学 園 報

No.32

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>
 富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsnet.or.jp/~midorino/>
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

学園50周年： 次の半世紀、富山教育界に私学の柱石を



理事長
金岡 祐一

(1) **富山国際学園**：①永らく「国公立優先」が、当然の如く「中央志向の富山気質」とされてきました。地方の小県のマジメ・勤勉な県民性としては、理解できる。私自身も元国立大学教員。しかし35年を勤め上げ退官帰郷し、個人的縁あって私学へ。あらためて我国教育界を見直し、福沢諭吉の「烈々たる私学の独立精神」に共鳴。かくてこの20余年、富山県・私学振興の先頭に立つことになりました。昭和時代の県民の考え方の根底に実は、明治以来の「お上、お役所・至上主義」との時代遅れの残渣も一部にはあったかと思う。我々はあらためて民主主義の素朴な原点に立ち戻り、「自由闊達な教育理念」を追求しようではないか。②1963年、富山女子短期大学の創設以来50年。卒業生は2万人を超え、今や学園全体の卒業生総数は約4万人！富山県民は約109万人からみても、この半世紀、本県における学園の教育貢献度は比類なし。我々は自信をもってこの教育実績・成果を誇ろうではないか。50周年記念行事実施委員会を昨年立ち上げ、10月17日の式典を始め、記念誌発行、各校個別行事等の準備が進行中。とくに理事長主唱の「募金活動」は、今後の半世紀に向け、富山県教育界で社会的使命を果すべき学園の「決意表明」の象徴として、「全・教職員の自主的募金」を中核とする。その上で、関係各位のご理解・ご協力を仰ぐという主旨です。③理事長としては当初から心配し、多年、懸案だった呉羽キャンパス前、県道の歩道工事がようやく着工。25年度は校舎前まで。しかし見通しができ、一安心。

(2) **富山国際大学**：①現代社会学部では (a) 名の如く国際交流は活発。海外のインターンシップ(大連)へ3名、海外ボランティア実習(タイ)へ8名、仏語圏アフリカ諸国へ11名の学生を送りました。(b) 通学利便のため月岡からシャトルバス計画。②子ども育成学部は (a) 待望の1期生卒業。小学校教員試験6名、社会福祉士国家試験8名合格。卒業生64名中、複数資格取得者52名。(b) かくて野心的な「教育と福祉のハイブリッド教育」計画に一定の成果をあげ、一躍、県内教育界の注目を浴びました。(c) 志願者も25年度は5割増し。完成年度を好調に実現できたことを喜びましょう。

(3) **富山短期大学**：ようやく改築工事開始。お待たせしました。25年度は(共用)多目的ホール完成の予定。①食物栄養

学科では (a) 就職+進学率100%。

(b) 「ホタルイカと生活習慣病」(竹内教授)、「有色素米ペースト」(深井教授)等、研究活動も盛ん。

(c) 専攻科入学者は定員を超え、卒業生14名中、12名が学士号を取得。

就職率100%。②幼児教育学科も就職率100%。多年の全国視野かつ地域密着の教育実績に対する、県内保育園、幼稚園の高い信用の証明。③経営情報学科は (a) 定員超の入学者をあえて確保。学園財政への特別の貢献に感謝。(b) 実務教育では、日本ビジネス実務学会の中部ブロック研究会(1月)、学生プレゼンテーションコンテストで2人がそれぞれ最優秀賞と優秀賞獲得は快挙。④福祉学科は (a) 全国的な志願者減の困難な状況の中、苦戦。力を合せ草の根の努力。サポートしましょう。(b) 厚労省の委託職業訓練生制度等にも協力。

(4) **国際大学付属高校**：(a) 新校舎で意気盛ん。志願者多く、むしろコントロールする状況。(b) 県内唯一、ユネスコスクールの認定を受けました。英語検定1級2名。(c) 部活動も盛んで全国大会に数部出場。とくに女子バドミントンダブルスで優勝。「文武両道」の面目躍如です。

(5) **短大付属みどり野幼稚園**：(a) 認定子ども園制度化に伴い、今後のみどり野幼稚園の方向を検討するためのプロジェクト開始。(b) 獅子舞定着など地元と交流深い一方、付属高校を通じアメリカから「青い眼の人形」が届き、新聞でもトピック。

(6) **社会福祉法人富山国際学園福祉会・にながわ保育園**：(a) 富山市から移管を受けて以来、8回目の卒園式。最初の説明会では民営化への心配から、保護者側の冷たい眼に困まれたことを思い出します。(b) しかし学園のバックアップもあり、今や地元から大きな信頼を得、好評。学園の事業として成功、有意義だったと思う。

(7) **理事長から**：50周年行事は、学園の「夢と希望」のベクトル顕示の機会。全教職員の方々の熱い教育エネルギーの結集と発現をお願いします。来る半世紀、富山教育界に私学の力強い柱石を確立しようではないか！

CONTENTS

- 学園50周年:次の半世紀、富山教育界に私学の柱石を
理事長 金岡 祐一 1
- 特集1 学園創立50周年記念事業について~2~
..... 2~3
- 特集2 子ども育成学部第1期生が卒業
..... 3~5

- トピックス 道路拡張工事(歩道の設置)について 5
- 平成25年度入試状況・平成24年度進路状況 5
- 平成25年度予算概要 6~7
- 学園退職者・新任者一覧 7
- 学園NEWS 8

学校法人富山国際学園 創立50周年記念事業について～2～

本年10月17日に創立50周年記念式典・祝賀会・講演会を開催します。
また、個別事業・寄付金募集について、その実施概要、状況を紹介いたします。



(平成24年11月～創立50周年記念事業Webサイト立ち上げ。)
<http://www.tii.ac.jp/50th/>

【記念式典・祝賀会・講演開催】

1. 創立50周年記念式典・祝賀会・講演日程等

式典等を通して、学園の発展に寄与された先人の功績を偲び、関係各位に深く感謝の意を表するとともに、さらなる発展に向けて、学園関係者が思いを新たにします。

〔日 時〕平成25年10月17日(木)
10時30分～15時30分(時間は予定)

(1) 記念式典 10時30分～11時50分
〔会 場〕富山短期大学 G館(新体育館)
〔出席者〕招待者約300名、学生・生徒約700名
(高3年、短大2年、大学4年)

(2) 記念祝賀会 12時20分～13時40分
〔会 場〕富山短期大学 G館(新学生ホール)
〔出席者〕招待者約300名

(3) 記念講演 14時10分～15時30分
〔会 場〕富山短期大学 G館(新体育館)
〔出席者〕招待者・一般約300名、学生・生徒約700名(高3年、短大2年、大学4年)

2. 記念講演講師 鎌田實先生略歴等

学園内4校の教職員から推薦された候補者に基づき、選定を進めました。決定までに時間を要しましたが、一般参加者の方々はもちろん、特にこれからの社会に羽ばたく生徒学生にとってふさわしい著名な講師から、快諾を得ることができました。



〔略歴〕昭和23年生まれ。現在、東京医科歯科大学臨床教授、諏訪中央病院名誉院長等。日本チェルノブイリ連帯基金(JCF)理事長として被災地ベラルー

シ共和国への医薬品支援や医師団派遣、日本・イラク・メデイカルネット(JIM-NET)代表としてイラクの小児病院への医薬品支援や難民キャンプでの診療、一昨年の3月11日以降は、東日本被災地支援にも取り組んでいる。

〔主な著書〕「がんばらない」「あきらめない」「それでもやっぱりがんばらない」(集英社)他多数。

【記念誌作成】

富山国際学園創立50周年を記念して、記念誌部会では、縮約版と保存版の2種類の記念誌を制作しています。縮約版は、学園全体の歴史を俯瞰するとともに、写真を中心に各機関の歴史をコンパクトに纏め、本年10月17日の記念式典の際に配布する予定です。保存版は、学園のアイデンティティーを確認し、学園のDNAを継承するとともに、これからの「より魅力ある学園」の在り方を考える指針・資料として、来年の3月に刊行する予定です。

【個別事業実施】

主な事業は以下の通りです。

〔大学〕

創立50周年記念 国際交流フォーラム「友好交流二千年の叡智に学ぶ東アジアの未来」

姜尚中教授をお招きし、東アジア諸国の今後の民間交流の在り方について考えます(11月17日開催)。また、6月15日に「エクステンション・カレッジ 特別講座」マリ・クリスティーン氏による講演を予定しています。6月29日に第5回子ども育成フォーラムを、11月に子ども育成学部第5回公開セミナーを開催します。

〔短大〕

創立50周年記念 富山短期大学公開講座-Part1-

富山短期大学F館(新講義棟)を会場に平成25年11月30日・12月7日の2週に亘って、「富山の魅力、再発見」をテーマに今日の富山を支える子育て、教育、福祉、そしてホタルイカの健康機能効果の講演を行います。Part2は高岡市生涯学習センターで実施します。

〔高校〕

創立50周年記念 国際理解講座

生徒の国際化には「英語」習得と「国際理解」が必須です。英語教育はSELHi(Super English Language High School)として定評がありますが、世界を知るために、年15回程度様々な国から講師を招いて「国際理解講座」を開催しています。

〔幼稚園〕

学園創立50周年記念運動会

みどり野幼稚園では、これまで短大体育館を利用して運動会を開催してきました。今年度は、学園創立50周年を記

念し、9月28日の土曜日に運動会を開催します。新体育館を使った大勢の人が集まるイベントとしては、幼稚園の運動会が最初となる予定です。園児やその家族、卒園した小学生や地域の未就園児など、400名ほどが集い、みんなで楽しく身体を動かして、盛大に学園創立50年をお祝いしたいと思っています。

【寄付金募集について】

学園報No.31でお知らせいたしました「学園創立50周年記念事業」の寄付金の募集が、今年の12月1日より始まりました。学園関係者以外から募金をいただくには、学園の教職員が率先して募金に協力する姿勢を見せることが大切であるとの思いから、学園の教職員の皆さまにも「寄付金募集の趣意書」を配布させて頂きました。募金部会では、募金目標額8千万円の内の1割（8百万円）を教職員の目標額といたしました。富山国際学園の「今後の50年」のため、学園の教職員の皆さまのご協力をぜひお願い致します。

本学園教職員の寄付状況（平成25年5月31日現在）
「171名 18,340,000円」

特集 2

教育と福祉のハイブリッド 子ども育成学部第1期生が卒業

子ども育成学部長 宮田 伸朗

■逆境～苦悶の2+3年間

「国際大学で本当に教員養成ができるんですか??」。設置認可申請中の平成19年夏、入試説明会での県内A高校B先生の呆れたような率直な質問。「教育実習は、一体どこの小学校で受け入れてもらうつもりですか??」。協力依頼に出向いた先、C市教育委員会幹部の冷やかな?問いかげ。文科省担当官からはダメ出しの連続、専門委員からは、「申請辞退せよ」と言わんばかりの10数項目の留意事項や改善意見（レッドカード!）。受験する生徒に、担任の先生が「おまえそんな学校を受けるのか?」と言ったとか?…。新学部設置は、まさに「産みの苦しみ」が連続する「超難産」でした。

平成21年念願の学部開設後も、内外ともに富山国際大学にとって「アゲインスト」が吹き荒れる逆境の時代。実習先やアルバイト先で多くの学部生が味わった苦しい思い。教員にとっても「卒業生がいない春」のわびしさ、「教育と福祉のハイブリッド」を掲げた学部の教育理念・目標や内容は決して間違っていないはずなのに、日頃の教育努力の成果や達成感が実感できずに悶々と過ぎていく3年間。

■快挙～感動の完成年度

「就職の実績がないから、生徒に受験を勧められない」と言われ続けて4年目。格言「艱難汝を玉にする」が恨めしくさえ思われていた矢先、第1期生が小学校教員採用2次試験で6人合格の快挙!

【広告関係】

昨年11月からJR富山駅コンコースに柱広告を掲出。

4～10月にかけて、新聞（北日本・富山・読売・朝日）、雑誌（FAVO）への掲載・TV、ラジオスポットによる本学園及び50周年事業を告知することとしております。



（平成24年11月～JR富山駅看板広告掲出）学園と各学校のイメージを、スクロールさせる形式で告知しております。

大学院進学も含め、卒業生の約9割が教育・福祉・保育の道に進路を決めていく中で、極めつけは社会福祉士国家試験の結果。卒業を数日後に控えた3月中旬、合格率40%は全国200余校の中で第31位、私学では、名だたる福祉の名門大学をしり目に堂々の第4位！（全国平均合格率18.8%）

平成25年3月、4年間の充実した学習・学友会やサークル活動・友人や教職員とのふれあいと学び合い、さわやかな充実感と感動を胸に、誇り高い第1期生が巣立っていきました。学園創立40周年（平成15年）を機に、50周年に向けた将来構想として、呉羽キャンパスの4年制新学部設置について富山短大で検討を開始したのが平成16年、以来足かけ10年に及ぶ取り組みの最初の到達点となりました。

■高まる関心、入学志願者5割増し

「国際大学は意外とやるじゃないか…」。教員採用試験での第1期生の健闘は、県内教育関係者の間に少なからぬ波紋を呼び起こしました。それまであまり関心を示してもらえなかった高校や受験生の間でも、子ども育成学部が注目され始めるようになりました。平成24年暮れの学長・学部長による高校特別訪問でも、各校でそれまでとは手のひらを返したかのように良い反応が実感できました。

平成25年度入試の結果は、志願者総数で念願の200名を超えて史上最高の236名（前年度155名）、志願倍率は2.95倍（前年度1.93倍）と難化し、定員を5名上回る85名の入

子ども育成学部第1期生（64名）の就職・進学状況

小学校教育	児童福祉施設等 保育・幼児教育	社会福祉・医療	子ども育成 団体・企業等	一般企業	進学	（家事・未定） その他
11 (講師含む)	21	13	3	8	5 (うち大学院4)	3

子ども育成学部第1期生（64名）の資格取得状況

(1) 1人当たりの法定資格・免許（小・幼・保・社）取得者数

- 4種類=3名 ○3種類=20名 ○2種類=25名
- 1種類=14名 ○無=2名

(2) 資格・免許取得のべ数

（小 一 学 校 種 教 育）	（幼 稚 園 種 教 育）	保 育 士	社 会 福 祉 士	社 会 福 祉 主 事	ワ ー ク シ ャ ル ・ カ ー ナ ル
40	47	41	国家試験受験資格20 国家試験合格8	60	2

学者を確保することができました。平成25年4月現在の定員充足率は96.4%、念願の総定員100%の達成まであと一息というところまで漕ぎつけています。

■成果の背景=学園のDNAストレングスの結集

子ども育成学部の成果は、決して学部の「発明」によるものではありません。富山短大で日本海側の大学初の福祉学科を立ち上げ（平成8年）、文科省の「特色GP第1号」（平成15年）の栄に浴した時と同じ手法によるものです。それは、富山国際学園の各大学が50年間集積してきた教育・研究・社会貢献・大学運営のDNAストレングス（強み）の結集です。

例えば、【人文学部DNA】教養ゼミ・卒研ゼミでの担任による少人数指導、【福祉学科DNA】地域社会の行事や実践活動への参加による学び、【食物栄養・幼児教育・福祉学科DNA】学外実習の徹底した事前・訪問・事後指導、資格取得や専門職試験合格のためのキャリア支援講座、【地域・国際教養学部、経営情報学科DNA】地域の企業・実践現場に学ぶインターンシップ、【短大各学科DNA】息の長い卒業教育、【国際大学DNA】地域資源と連携した教育・研究など枚挙に暇がありません。

「学校と家庭との連携」も同様です。富山国際学園50年

の教育実績は、学生の成長=教育の成果は、①学生自身の主体的な学び、②教職員による指導・支援、③家庭による見守り・支援の「三本の矢」が一体となって初めて成し遂げられるものであることを示しています。「大学に来てまで保護者呼び出しか?」、「学生の自主性が大事」という批判や願望は、今日の大学ユニバーサル化時代では、現実に関心を閉ざした「優雅な誤信」であると言わざるを得ません。

大学として「当たり前」（平成15年福祉学科「特色GP」での評価）の活動を「当たり前」に展開してきた子ども育成学部。決して緒戦の戦果に安住しているわけにはいきません。18歳人口の一層の急減「2018年問題」が喧伝されている今こそ、学園創立50年のDNAストレングスに誇りと自信を持って、さらなる高みCenter of Community（地域における知の拠点COC）を目指して前進を続けなければなりません。

■志高く、学園の「切り札」としての挑戦

子ども育成学部の新しい挑戦は、すでに始まっています。学部ではすでに開設3年目から、第2期学部運営計画（設置から完成年度までの4年間に続き、平成25年度からの概ね5年間で期間とし、平成31年の学部開設10周年を展望）の策定に取り組み、平成24年8月には「中間まとめ」を行いました。そして、平成25年度に向けて、①小学校教育分野を中心とした教員組織の充実・再編、②「教育と福祉のハイブリッド」を発展させた平成26年度以降のカリキュラム改正、③学生の学習環境の整備と自主的活動の支援強化、④卒業教育の組織化をも展望した卒業生・同窓会への支援などに、前倒しで取り組んできました。

学部の短期的課題には、①第2期生のより高い就職・進学目標の達成、②26年度入試での学部総定員（収容定員）の確保、③実習施設や地域との連携による学生の実践力向上の取り組み、④再編された教員組織・事務組織の機能強化などの諸課題があります。



子ども育成学部第1期生(平成21年4月 呉羽キャンパスE館屋上で)



また、学園内各校との関係では、①みどり野幼稚園・にながわ保育園との連携強化、②付属高校との連携・接続の強化、③短大の幼児教育・福祉学科等からの編入学・連携の促進、④新装呉羽キャンパス・アメニティ環境での生徒・学生相互の共存・共生・交流の促進、⑤東黒牧キャンパスとの連携・協働の強化などの諸課題があります。

さらには、学園創立50周年以降の中長期的経営戦略構想のなかで、「学園の切り札」（金岡理事長）と称される子ども育成学部が、額面通りの富山国際学園の更なる発展に

向けて、そのLeading hitterとして志高く、「名誉ある寄与・貢献」ができれば、学部関係教職員にとって望外の慶事です。

最後に改めて、教職員一同、学部の発展に向けて全力投球を続けていくことをお誓い申し上げ、これまでの多くの学園関係者の皆様方の深甚なるご厚情に深謝申し上げますとともに、今後とも倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

トピックス

道路拡張工事(歩道の設置)について

長年の懸案であり、交通事故の心配が絶えなかった短大正面の歩道設置工事が、昨年11月に着工し、今年の5月中に完成しました。今回の工事は、高校の正門から短大までの間114mです。

歩道の幅員は2.5mで、学生や生徒はより安全に通学できることとなります。

今回の工事にあたって、多くの樹木を伐採しましたが、短大創設以来、学生や教職員に慣れ親しまれてきた「スダジイ」の木を短大正門南側に移植し、学園のシンボルとし

て残すことにしました。

また、短大及び高校の正門等を学園創立50周年に相応しいものになるよう計画しています。正面等の設置工事は、歩道の完成後に着手し、富山短期大学の新校舎建築工事と同時期の平成25年8月末に完成させる予定です。

なお、このたびの歩道設置の実現にご尽力いただいた川腰願海寺自治会長、下村野々上町内会総代、深田願海寺町内会総代及び今後予定されている歩道整備区間において敷地を提供される近隣の皆様方に深く感謝申し上げます。

平成25年度入試状況

大 学

(平成25年4月5日現在)(単位:人)

学 部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	156	156	149	98
子ども育成	80	236	234	169	85
合計	200	392	390	318	183

短 大

(平成25年4月4日現在)(単位:人)

学 科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	115	115	106	89
幼児教育	80	156	155	115	86
経営情報	100	171	171	158	131
福 祉	70	47	46	49	45
食物栄養専攻	15	20	20	16	16
合計	345	509	507	444	367

※経営情報学科と福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む。

高 校

(平成25年4月8日現在)(単位:人)

コース・クラス	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	1クラス	191	190	33
特進コース	1クラス	501	498	30
フロンティアコース	5クラス	705	693	230
合計	7クラス	1397	1381	293

平成24年度進路状況

(平成25年3月31日現在)(単位:人)

学 部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	103	86	80	93.0	7
子ども育成	64	57	55	96.5	5
合計	167	143	135	94.4	12

(平成25年3月31日現在)(単位:人)

学 科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
食物栄養	86	80	80	100.0	2
幼児教育	93	90	90	100.0	0
経営情報	119	114	109	95.6	2
福 祉	41	37	37	100.0	2
合計	339	321	316	98.4	6

食物栄養専攻	14	12	12	100.0	0
--------	----	----	----	-------	---

(平成25年3月31日現在)(単位:人)

大 学	入学者	合格者	短期大学	入学者	合格者	その他	入学者	合格者	卒業生
富山国際大学	11	16	富山短期大学	31	32	専修各種学校	53	59	211
国 公 立	8	13	国公立短大	0	0	就 職	41		
他の私立大学	52	83	他の私立短大	7	7	そ の 他	10		
計	71	112	計	38	39	計	104		

平成25年度新入園児童

幼稚園

(平成25年4月1日現在)(単位:人)

	新入園児	在園児	計	男	女
3歳児	31	0	31	16	15
4歳児	2	39	41	22	19
5歳児	1	36	37	23	14
合計	34	75	109	61	48

平成24年度卒園児童

(平成25年3月31日現在)(単位:人)

	男	女	合計
5歳児	14	16	30

平成25年度 予算概要

平成25年度の事業計画及び予算は、去る3月28日に開催された評議員会・理事会において承認されました。

各校ごとの主な事業計画及び予算の特徴は以下のとおりです。

大学

子ども育成学部が、前年度に完成年度を迎え、今年度より経常費補助金の対象となり、補助金交付が見込めることとなりました。また、経費の積極的な圧縮を行い、9百万円余りの黒字予算編成となりました。平成21年度に策定した経営改善計画に基づき、予てからの課題であった慢性的な赤字体質から脱却し、今後も安定的に黒字予算に努めなければなりません。

主な事業としては、東黒牧キャンパスでスクールバスを運行します。これにより、学生の経費負担の減少や通学時間の短縮が図られる見込みです。また、文部科学省を始め、各種外部資金を積極的に獲得し、教育研究の更なる質向上に努める予定です。

短大

短大は、学園内で唯一、安定的に志願者・学生数を確保していましたが、近年、志願者・学生数共に減少傾向にあり、収入増が見込めない状況にあります。特に、福祉学科においては、富山県の委託事業等を積極的に利用していま

すが、定員割れの状態が続いており、更に学生募集活動に注力しなければなりません。また、昨年度より行っている短大校舎改築Ⅰ期工事業等により46百万円余りの赤字予算編成となりました。

主な事業としては、短大校舎改築Ⅰ期工事が挙げられます。今年度で工事や備品納入等が完了し、10月からは新校舎を利用出来る予定です。また、新校舎完成にあわせて、食堂・売店業者を変更し、新しい学生アメニティ環境を整備します。

高校

新校舎完成や中学校へのPR効果により、志願者・生徒数増となり、37百万円余りの黒字予算編成となりました。生徒数増により学納金は増加しますが、富山県からの補助金が減額される見込みであるため、収入全体では大きな増額とはなりません。また、生徒数増に伴い、新規に教員を採用することから人件費が増額となります。任期のある教員採用ではありますが、固定費である人件費の増額は大きな課題であり、今後の生徒数の増減にあわせて、慎重に対応しなければなりません。

主な事業としては、生徒数増に伴う新校舎の教育環境の追加整備や、生徒の安全確保のための施設整備等が挙げられます。

幼稚園

幼稚園においては、園児数の減や補助金の減等により、

資金収支予算書

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで (単位:千円)

	平成25年度予算額	平成24年度当初予算額	差異		
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,859,848	1,841,158	18,690	
	手数料収入	32,774	32,939	-165	
	寄付金収入	2,105	705	1,400	
	補助金収入	613,460	570,444	43,016	
	資産運用収入	17,690	28,885	-11,195	
	資産売却収入	1	1	0	
	事業収入	78,812	77,062	1,750	
	雑収入	72,697	117,660	-44,963	
	借入金等収入	0	0	0	
	前受金収入	469,315	469,315	0	
	その他の収入	990,737	1,032,627	-41,890	
	資金収入調整勘定	-557,375	-494,615	-62,760	
	前年度繰越支払資金	840,000	929,000	-89,000	
	収入の部合計	4,420,064	4,605,181	-185,117	
	支出の部	人件費支出	1,642,933	1,708,793	-65,860
		教育研究経費支出	549,354	577,724	-28,370
管理経費支出		162,439	121,721	40,718	
借入金等利息支出		0	540	-540	
借入金等返済支出		240	5,090	-4,850	
施設関係支出		768,016	1,025,040	-257,024	
設備関係支出		162,764	36,293	126,471	
資産運用支出		277,318	183,614	93,704	
その他の支出		173,000	261,866	-88,866	
[予備費]		15,500	15,500	0	
資金支出調整勘定		-118,500	-91,000	-27,500	
次年度繰越支払資金		787,000	760,000	27,000	
支出の部合計		4,420,064	4,605,181	-185,117	

消費収支予算書

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで (単位:千円)

	平成25年度予算額	平成24年度当初予算額	差異	
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,859,848	1,841,158	18,690
	手数料	32,774	32,939	-165
	寄付金	3,807	2,906	901
	補助金	613,460	570,444	43,016
	資産運用収入	17,690	28,885	-11,195
	資産売却差額	1	1	0
	事業収入	78,812	77,062	1,750
	雑収入	72,697	117,660	-44,963
	帰属収入合計	2,679,089	2,671,055	8,034
	基本金組入額	-104,220	-463,149	358,929
消費収入の部合計	2,574,869	2,207,906	366,963	
消費支出の部	人件費	1,647,433	1,711,793	-64,360
	教育研究経費	808,854	848,924	-40,070
	管理経費	164,339	123,861	40,478
	借入金等利息	0	540	-540
	資産処分差額	15,500	153,500	-138,000
	[予備費]	15,500	15,500	0
	消費支出の部合計	2,651,626	2,854,118	-202,492
	当年度消費支出超過額	-76,757	-646,212	569,455
	前年度繰越消費支出超過額	-1,036,964	-2,636,390	1,599,426
	基本金取崩額	0	2,245,869	-2,245,869
翌年度繰越消費支出超過額	-1,113,721	-1,036,733	-76,988	

6百万円余りの赤字予算編成となりました。本園は、大学子ども育成学部及び短大幼児教育学科の実習園としての役割を持っていますが、慢性的な赤字体質を改善する努力は必要です。

主な事業としては、将来的な園舎老朽化に伴う改築工事を見据えて、認定こども園など行政の動向も含めて、幼稚園の在り方を検討することとしています。

学園全体

消費収支予算【1会計年度の消費収入と消費支出を明らかにして、その均衡状態を表すもの】

において、消費収入の部では帰属収入合計が2,679百万円（対前年度当初予算比8百万円増・0.3%増）となり、これから基本金組入額を差し引いた消費収入合計が2,575百万円（同367百万円増・16.6%増）となっています。消費支出の部では、消費支出合計が2,651百万円（同202百万円減・7.1%減）となっています。この結果、消費支出超過額（いわゆる赤字額）は、77百万円（同569百万円減・88.1%減）となり、前年度繰越消費支出超過額1,037百万円に、平成25年度の赤字額77百万円を加えた1,114百万円が翌年度繰越消費支出超過額（累積赤字）となっています。なお、基本金組入前の帰属収支差額は、消費支出額の大幅な減により27百万円余りの黒字予算となっています。

資金収支予算【1会計年度の全ての資金の収入と支出を明らかにし、資金の動きを表すもの】

において、平成25年度の諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、事業収入、平成25年度入学生の前受金、平成24年度末の未収入金の見込額等が計上されています。

一方、支出としては、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出等が計上されています。その結果、平成25年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の資金として、4,420百万円（同185百万円減・4.0%減）が見込まれています。

学園の財政状況は、高校校舎改築及び短大校舎改築Ⅰ期工事と大きな施設設備投資が続き、これらを全て自己資金で賄っていることから、自己資金保有額は大きく減少しています。また、幼稚園園舎の老朽化、短大校舎Ⅱ期工事等、今後の施設設備計画について検討しなければなりません。そのためには、経常収支での黒字化は必須条件となるため、積極的な収入確保と徹底的な不要不急な経費の削減、予算の効率的執行が不可欠です。

◆退職者一覧（平成25年3月31日付）

- <大 学> 郷倉 祀子（子ども育成学部 教授）
- 大石 昂（子ども育成学部 教授）
- 郷 龍夫（現代社会学部 教授）
- 永井 広克（地域交流センター 准教授）
- 坂巻 龍雄（事務部長・学園本部事務局次長（兼務））
- <短 大> 小西 尚之（幼児教育学科 講師）
- 大坪 瞳（食物栄養学科 主事兼実習助手）
- <高 校> 井城 斎加（教諭）
- 藤木 優子（常勤講師）

平成25年度部門別消費収支予算書

（単位：千円）

科目	部門	法 人	大 学	短 大	高 校	幼稚園	総 額
消費収入の部	学生生徒等納付金	0	755,104	680,100	395,631	29,013	1,859,848
	手数料	0	9,781	14,968	7,990	35	32,774
	寄付金	2	2,101	3	1,001	700	3,807
	補助金	0	233,256	124,209	237,600	18,395	613,460
	資産運用収入	15,020	1,070	1,400	200	0	17,690
	資産売却差額	0	0	1	0	0	1
	事業収入	0	18,118	27,100	27,000	6,594	78,812
	雑収入	200	24,957	47,000	540	0	72,697
	帰属収入合計(A)	15,222	1,044,387	894,781	669,962	54,737	2,679,089
消費支出の部	人件費	39,305	621,361	552,832	394,778	39,157	1,647,433
	教育研究経費	0	353,921	252,053	182,038	20,842	808,854
	管理経費	44,860	51,202	50,719	16,735	823	164,339
	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
	資産処分差額	0	2,000	3,000	10,500	0	15,500
	予備費	2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500
消費支出合計(B)	86,165	1,033,484	863,604	607,051	61,322	2,651,626	
基本金組入額	第1号基本金	0	1,791	77,255	25,164	0	104,210
	第2号基本金	0	0	0	0	0	0
	第3号基本金	10	0	0	0	0	10
	第4号基本金	0	0	0	0	0	0
基本金組入額合計(C)	10	1,791	77,255	25,164	0	104,220	
当年度消費支出超過額(D)=(A)-(B)-(C)	△70,953	9,112	△46,078	37,747	△6,585	△76,757	
前年度繰越消費支出超過額(E)	—	—	—	—	—	△1,036,964	
翌年度繰越消費支出超過額(D)+(E)	—	—	—	—	—	△1,113,721	
【参考】							
当年度帰属収支差額(A)-(B)	△70,943	10,903	31,177	62,911	△6,585	27,463	

本学園は、富山県を始めとした自治体や県内企業、そして多くの富山県民に支えられて、平成25年度に創立50周年を迎えます。教職員一同は、この節目の年を迎えることができることに感謝し、「次の50年」に向けて努力しなければなりません。

極端な少子高齢化社会において、私学を取り巻く環境は、決して楽観出来る状況にはありません。本学園においても例外ではありません。学生生徒を安定的に確保し、質の高い教育を行い、社会に送り出すことは、「地域に根ざした学園」としての本学園の使命であり、これまでの支援に対する感謝の意味を持ちます。この使命を果たすためにも、教職員一丸となって、学生生徒の確保に努め、財政基盤の安定を図ることが必要となります。

◆新任者一覧（平成25年4月1日付）

- <大 学> 仲井 文之（子ども育成学部 教授）
- 辻井 満雄（子ども育成学部 教授）
- 吉田 昌弘（子ども育成学部 准教授）
- 高橋ゆかり（現代社会学部 講師）
- <短 大> 梅本 恵（幼児教育学科 講師）
- 稲場 暁子（食物栄養学科 主事兼実習助手）
- <高 校> 川西 嘉之（教諭） 山本 律子（教諭）
- 中山 哲秀（講師） 橋本 知彦（講師）
- 有澤 儀昭（講師） 宮永 有季（講師）

富山国際大学

「グローバル人材の育成に向けて」

2月からの2週間、県庁とYKK社主催による「企業実務研修」が中国・大連市で開催され、県内から7名、うち本学からも3名の学生が参加しました。「様々なGAPを発見して自己の不足部分を自覚し、自己練磨を図る」機会を与え、ひいてはグローバルな視点で活躍できる人材を、という熱い思いが実現したプロジェクトですが、各種講義、工場実習、現地学生との討論会、ホームステイ、小旅行など盛り沢山の内容で構成され、若者同士の交流も図ることが出来ました。次年度以降も本学から参加させたいと願っています。



富山短期大学

卒業生総数が20,000人を越えました



富山短期大学は、昭和38年に富山県民をはじめ、地域の大きな期待を担って富山女子短期大学として開学しました。その後、学科増設や再編を行いながら、平成12年には男女共学化に伴い、富山短期大学と改名しました。そして、平成25年3月卒業生353名を加え、卒業生総数が20,083人となり、今年創立50周年を迎えます。

歴史と伝統の積み重ねに加え、今後のさらなる発展に向けて教職員が一丸となって邁進いたします。

富山国際大学附属高等学校

平成25年度も好発進

4月8日（月）に入学式を行いました。元気一杯の新入生が新しい制服に身を包み、国際生としての新生活をスタートさせました。新入生は294名で、今年度も定員以上の生徒が本校を選んできたのです。

春休みには、北九州市で行われた全国選抜大会で女子バドミントン部がダブルスで初優勝を果たして、全国に「富山国際」の名前を発信してくれました。ユネスコスクールに認定された地道な教育活動も含めて、国際高校は今年も元気です。



富山短期大学附属みどり野幼稚園

「ようこそ、青い目をしたお人形さん」



3月4日、青い目をしたお人形の「シェリーちゃん」が幼稚園に届けられました。

戦前、シドニー・ルイス・ギューリック氏が日米の子どもたちの親善に役立てようと寄贈されて有名になりましたが、現在も日米間で交流が続いています。今回、ギューリック氏のお孫さん、ギューリック三世デーニー氏と附属高校放送部との交流がきっかけで、みどり野幼稚園に人形が送られることになり、附属高校の放送部員から園児に手渡しされました。

日米の心温まる交流を感じ、子どもたちが、世界に視野を広げて行動できるきっかけになればと思います。